みやぎ生協

● コープこうべ・みやぎ生協共同開催「震災復興コンサート」

今年は、阪神淡路大震災から20年の節目となります。

コープこうべでは、音楽を通じた支援として「音楽活動支援募金」に取り組み、その募金を活用した、こうべ・みやぎ共同の音楽活動「こうべからみやぎへ つなごう音楽の心・震災復興コンサート～クミコとともに」が、3月8日（日）仙台市民会館大ホールで行われました。

コープこうべとみやぎ生協は、阪神淡路大震災直後にみやぎ生協職員 50 人が被災地に駆けつけて、物資提供や事業支援を行なうなど、繋がりを深めてきました。東日本大震災で今度は、コープこうべからたくさんの支援をいただき、現在でも多方面で協力し合っています。

今回のコンサートでは、コープこうべの組合員による「第九合唱団」有志メンバー49 人が来仙し、閖上・荒浜の被災地視察や、みやぎ生協震災学習・資料室の見学などを行った上で、当日のコンサートに臨みました。

コンサートでは、みやぎの合唱団 45 人や、シャンソン歌手クミコと会場に集まった 1,194 人も一緒に、「見上げてごらん夜の星を」「花は咲く」を大合唱

感動あふれるコンサートの様子

しました。参加者からは、遠く神戸から素晴らしい歌声を届けに来てくれたこうべ合唱団への感謝の言葉や、「涙が止まらなかった」などの声が寄せられ、会場もステージも一体となったコンサートとなりました。

（生活文化部課長　高村敦子）

● 国連防災世界会議パブリックフォーラム

「被災者の心を支えるために～東日本大震災のこれまで、そして今後の災害に備えて～」

3月15日（水）東京エレクトロンホール宮城会議室を会場に開催されたフォーラムは、東日本大震災発生直後から、宮城県内の子どもの心のケアに当たる人々を支援する「ケア宮城」と共に、心のケア支援プログラムを実施してきた公益財団法人プラン・ジャパンが共同で開催し、約 130 人が参加しました。

会場の様子（上）

TOMONY 共同代表 小澤義春（左）

写真提供:プラン・ジャパン

プラン国際本部・緊急支援担当ウニ・クリシュナン医師から「大災害後の回復力を高めるために」の基調講演の後、東北大学大学院教育学研究科長・同教育学部長の本郷一夫教授の進行によるシンポジウムでは、プラン・ジャパンコミュニケーション部マネージャーの膳三絵さん支援者のための支援センターTOMONY 共同代表の小澤義春（みやぎ生協執行役員）、ケア宮城代表・宮城学院女子大学名誉教授の畑山みさ子さんが発言しました。

TOMONY は、東日本大震災の支援活動をするあらゆる人々を支援することを目的に 2012 年から活動を開始し、これまでの活動をとおして確信した「支援者への支援」の必要性・重要性と課題などを発言しました。

（生活文化部部長　小澤義春）

東日本大震災　復旧・復興のとりくみ

みやぎ生協

● 食のみやぎ復興ネットワーク「復興亘理そばに乾麺が登場しました」

亘理郡（亘理町・山元町）のソバの生産者を応援する「わたりのそばプロジェクト」。

昨年は、47ha の畑から 16 トンのソバが収穫され、「復興亘理そば（生麺）」は、12 月に年越し蕎麦として、県内で１万パックのご利用を頂きました。

そして震災から 4 年を迎える今年 3 月、「地域の復興に向けて頑張る方々をさらに力強く応援したい」との思いを込めて、乾麺タイプを発売しました。

宮城の伝統麺「白石温麺」の製造メーカーである白石興産株式会社が製造しました。そばの風味を味わえるように、そば粉の配合は５割。塩を使わずに製麺したので「そば湯」もおいしく頂けます。そばの風味と麺のコシに高い評価を頂いています。「手軽に亘理のそばを食べたい」「遠くに引っ越した友人に贈りたい」など生麺の利用者と、

新発売【乾麺タイプ】
２人前（一八〇g）
二九八円＋税

「買って被災地の復興を応援したい」という全国の生協からの声に、お応えした商品です。

みやぎ生協とエーコープ宮城の全店舗で発売中です。どうぞ一度お召し上がりください。

（事務局　藤田孝）

生協あいコープみやぎ

●「もしも女川原発で事故が起きたら」

3 月 5 日（木）に、「もしも女川原発で事故が起きたら」を日立システムズホールにおいて開催し、75 人が参加しました。

現在原発事故の避難計画は 30 キロ圏内とされていますが、事故が起きた時、どこにどのくらいの被害があるのか、具体的にイメージする一つのきっかけとしてこの会を設けました。また、今後のエネルギー政策について「ドイツの今を知る」と題した講話、その他にあいコープがこれまで様々な活動を行ってきたことをダイジェストで盛り込み内容の濃い企画となりました。

はじめに、原発問題住民運動宮城県連絡センターの中嶋廉さんよりレクチャーを受け、どこにも逃げ場はないことを実感しました。「再稼働はあり得ません」という声が、多数あがりました。

会場の様子（左）　参加者との情報交換（右）

次に、ドイツのシェーナウ市を視察に行かれたエネシフみやぎ代表の浦井彰さんの講話を聞き、「エネルギーの転換に向け行動して行こう」と意識が高まりました。

具体的にイメージすることの大切さを改めて感じます。脱原発、エネルギーシフト、省エネ、石けん環境、食が一緒になった企画だからこそやりたかったことで、 この会の参加をきっかけに、少しでも種まきやその後の繋がりができることを期待しています。

（理事　砂子啓子）

東日本大震災　復旧・復興のとりくみ

大学生協東北事業連合

●「未来の大学生応援募金」のとりくみ　～被災地域の高校へ義援金～

大学生協東北ブロックでは、2012 年より「未来の大学生応援募金」に取り組んでいます。

これまでに、全国の大学生協組合員やお取引先様などから寄せられた募金約 1,100 万円を、

岩手・宮城・福島の被災地域の高校 43 校へ、1 校 25 万円で総額 1,075 万円を義援金として一昨年に贈呈しています。

その後、同募金は新たな目標として 1 校 10 万円で 20 校、合計 200 万円を送ることを掲げ、継続して募金活動に取り組んでいます。

そして、この 3 月には大学を卒業する組合員に向けて、返還される出資金からの募金の協力を呼びかけました。これは、昨年京都の立命館生協で取り組まれ、同募金として送っていただいた事例を参考にしています。

東北の大学生協においては、福島大学生協、岩手大学生協、盛岡大学生協で、この取り組みを行いました。

他にも、この 3～4 月には、仙台地区の大学生協職員向けに、復興亘理そば（乾麺）の職場内販売を行い、その売上の一部を募金にしています。

現在の募金総額は 1,917,658 円（3/27 現在）となっています。

（大学生協東北ブロック
事務局長　田中康治）

宮城県高齢者生協

● 震災復興応援ツアー

「4年経つ、石巻市渡波の現状を見る～渡波地区の復興の今を、見る･聞く･知る～」

3 月 28 日（土）石巻市渡波・万石浦湾を巡る「震災復興応援ツアー」を開催し、組合員など県内から 39 人、県外から 5 人が参加しました。

バスの中で参加者全員が自己紹介をし、「石巻の状況を知りたい」「自分の中での風化を防ぎたい」「同級生が津波の被害にあった」など、それぞれの思いが語られました。

はじめに、宮城県高齢協の被災者交流サロン「ひなたぼっこ石巻」で 3 人の方から震災の様子をうかがい、その後、ワーカーズコープ「ビホロ」石巻事業所で地元食材を使ったお弁当と焼牡蠣の昼食をいただき、直売所で多くの参加者が復興支援として地元産品を購入しました。

水産加工業の阿部慎也社長からお話しをうかがいました。工場は再開したが業績は震災前の 6 割で、震災前からの従業員は「海の近くで仕事をしたくない」「避難先から戻らない」などの理由で 1/3 に減り、人手不足のため海外からの研修生も受け入れているそうです。

海苔の養殖をしている丹野恵子さんの船で、万石浦湾を視察しました。湾内はとても穏やかで、種牡蠣の養殖場や、震災で沈没したあさりの魚場を修復している現場等を見学しました。

（常務理事　長尾智美）

水産加工業の阿部慎也社長から話を聞く様子（左）
船で丹野恵子さんの説明を聞きながら万石浦湾を視察（右）